中　学　校

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

社　会

東京都教育委員会

目　　次

Ⅰ　研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅳ　研究方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅴ　研究内容

【研究構想図】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

1　思考力、判断力、表現力等を育成する学習指導について
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

2　社会的な見方・考え方を働かせた授業の創造・・・・・・・・・・7

3　検証授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

(1) 地理的分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

(2) 歴史的分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

(3) 公民的分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

Ⅵ　研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

Ⅶ　今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

研究主題

思考力、判断力、表現力等の育成を目指して

～社会的な見方・考え方を働かせた授業の創造～

Ⅰ　研究主題設定の理由

平成29年３月に新しい中学校学習指導要領が公示され、平成33年度から全面実施となる。今回の改訂は、2030年の社会と、その先の豊かな未来における初等中等教育が果たすべき役割を示すことを意図している。今後の社会は、ＡＩの発達により現在の職業が大幅に変化し、これから起こる予測困難な地球規模の課題も山積してくるだろう。このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

新中学校学習指導要領で示された「深い学び」とは、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会　平成28年12月21日）によると、「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関係付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び」と示されている。この深い学びを生み出すためには、何かを知っているといった一元的な理解にとどまらず、それらを他者に説明したり、資料を関連させたりするような対話を通じた主体的な授業を行うことがより必要となる。

研究員の過去の授業を振り返ってみると、言語活動の充実が図られてきたが、必ずしもそれが深い学びにつながっていない場合があった。その原因の一つには、どの場面でどの社会的な見方・考え方を効果的に位置付けるのか、教員が系統立てて考えられていないことがある。各分野の特質に応じて「社会的な見方・考え方」を整理するとともに、単元の中で対話する場面や考察・構想する場面を設定し、その際に効果的な「社会的な見方・考え方」を働かせることが必要だと考える。そのためには、単元を通した探究課題を適切に設定し、習得した知識及び技能をどこで相互に関連させるのかなどの活用を図ることを考え、単元終了時の生徒の目標到達の姿を明確にした指導計画の作成が求められる。そして、探究課題を明確にすることは、生徒の主体的な学習につながる。対話的な活動だけがあって明確な学びが少ないような状態を脱却するために、社会的な見方・考え方を計画的かつ系統立てた単元計画を作成し授業を行う必要がある。

以上の事から社会的な見方・考え方は、三つの資質能力の全てに関わるものであるが、取りわけ、思考力・判断力・表現力等に関係性が深いことから、新中学校学習指導要領における育成すべき資質・能力の三つの柱のうち思考力、判断力、表現力等に着目し、本研究では社会的事象について考察・構想する際に視点としての社会的な見方を、方法としての社会的な考え方を働かせることにより、これまで習得した知識及び技能を活用し思考力、判断力、表現力等を育成することに焦点を当て、本主題を設定した。

Ⅱ　研究の視点

本研究は、教科や分野、単元のねらいを達成するために、中学校社会科の指導の改善・充実を図ることを目的として、研究主題を「思考力、判断力、表現力等の育成を目指して～社会的な見方・考え方を働かせた授業の創造～」と設定し、次の２点を研究の視点とし、学習指導の工夫の研究を行った。

1　単元指導計画の工夫

単元のねらいを明確にした上で、単元を通した探究課題を設定するとともに、そのねらいを達成するための「社会的な見方・考え方」を働かせる学習活動を設定する。

2　学習活動の工夫

「社会的な見方・考え方」を効果的に働かせる対話的な学習活動を通じて、習得した知識及び技能を活用して考察・構想する学習を行う。

Ⅲ　研究仮説

単元指導計画の中で社会的な見方・考え方を働かせる活動を効果的に位置付け、それに基づいた指導をすれば思考力、判断力、表現力等を高めることができる。

東京都教育委員会が実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の学校質問紙調査において、「生徒の思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動の充実を図っている」という質問項目において、「よく行っている」、「どちらかといえば行っている」といった肯定的な回答が、平成 25 年度 87.9%、26 年度 88.8%、27 年度 88.5%、28 年度 91.4%と増加している。このことから思考力、判断力、表現力等を育むための言語活動の充実が図られていることが分かる。「言語活動の充実と平均正答率との関係」では、社会を除き言語活動を図っている学校の方が正答率は高いことが分かる。社会科においては、思考力、判断力、表現力等を育むための言語活動が必ずしも正答率を高めるような結果には結び付いていない。また、生徒質問紙調査において、「各教科の内容が分かる要因について」における言語活動に関連する項目で「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから」は平成 27 年度 25.2%が 28 年度 22.8%、「自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから」は平成 27 年度 23.5%が 28 年度 22.4%とともに減少している。この傾向は５教科の中で社会科のみ見られた。これらのことから、社会科においては特に言語活動の一層の充実を図る必要があり、さらに単元や一単位時間のねらいを踏まえ、単元の中で言語活動を設定し、その内容の充実を図る必要があるのではないかと考えた。

普段の授業においては、思考力、判断力、表現力等を育む活動として、単元指導計画を作成して指導を進めているものの、社会的な見方・考え方を指導する側も意図的に働かせるような単元指導計画になっていなかったことが考えられる。例えば、地理的分野において、我が国の国土の位置を、緯度と経度を使い国土の絶対的位置を捉える指導が十分でなかったため、世界の諸地域「オセアニア州」の学習における日本とオーストラリアの位置関係を捉えさせる学習で、「オーストラリアは日本の南にある」といった解答が学年の大半を占めた。位置の捉え方としては適切であるが、「オーストラリアは日本と同経度に位置している」など緯度や経度を使って相対的に位置を表すことに、さらに時差の学習において関連・発展させら

れるような確かな理解には至っていなかった。また、指導者が生徒に雨温図など焦点化された二つの資料を提示すれば、生徒は共通点や相違点を見いだすことがある。このように視点や方法を明確にした学習を積み重ねていくことで、後の対話を通じた学習活動を行う際に、社会的事象をより関連させて考察したり、構想（選択・判断）したりすることが効果的にできるのではないかと考えた。学習することに苦手意識をもっている生徒もいる中で、多くの生徒が深い学びを実現するために、他者との学習はこれまで以上に必要になる。対話を通じた深い学びをより効果的なものとするために、社会的な見方・考え方を働かせる学習活動を意図的、計画的に単元指導計画の中に設定することで、対話の際に生徒が行き詰まったり、より発展的な思考が生まれたりする時に、その見方・考え方（視点や方法）が有効になるのではないかと考える。

このことから、本研究では、以下のような具体的な学習活動を行う生徒の育成を目指していく。

1　社会的事象における課題を見いだし、解決に向けて考える生徒

2　調査や諸資料を基に、社会的事象を多面的・多角的に考察し、表現したり、合意形成したりする生徒

3　自己や他者の考えを基に考察・構想（選択・判断）する生徒

以上のことから、学習指導の工夫として、「単元指導計画の中で社会的な見方・考え方を働かせる活動を効果的に位置付け、それに基づいた指導をすれば思考力、判断力、表現力等を高めることができる。」と仮説を設定した。

Ⅳ　研究方法

○　以下の資料を参考に文献研究を行う。

・「児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」（東京都教育委員会、平成 25 年～平成 28 年）

・中学校学習指導要領（文部科学省　平成 20 年１月）

・中学校学習指導要領（文部科学省　平成 29 年３月）

・中学校学習指導要領解説総則編（文部科学省　平成 29 年６月）

・中学校学習指導要領解説社会編（文部科学省　平成 29 年６月）

・社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告）
（教育課程部会社会・地理歴史・公民ワーキンググループ　平成 28 年８月 26 日）

・「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ」
（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会　平成 28 年８月 26 日）

・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会　平成 28 年 12 月 21 日）

・小学校学習指導要領（文部科学省　平成 29 年３月）

・小学校学習指導要領解説社会編（文部科学省　平成 29 年６月）

○　検証授業や各学校での研究員での取組で得られた成果と課題をまとめる。

Ⅴ　研究内容

【研究構想図】

★育成を目指す資質・能力の三つの柱	★生徒の実態
◇生きて働く「知識及び技能」の習得 ◇未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成 ◇学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養	○授業において言語活動の充実が図られている割合は増加しているにもかかわらず、思考力、判断力、表現力等の育成が十分でない。

研究主題

思考力、判断力、表現力等の育成を目指して

～社会的な見方・考え方を働かせた授業の創造～

研究仮説

単元指導計画の中で社会的な見方・考え方を働かせる活動を効果的に位置付け、それに基づいた指導をすれば、思考力、判断力、表現力等を高めることができる。

【目指す授業像】　：教師の取組・手だて　：生徒の学習活動

働かせる見方・考え方の明確化・構造化

働かせる見方・考え方を相互に関連させた単元の指導計画

生徒が見方・考え方を効果的に働かせるための工夫

問いの工夫	生徒の学習活動	対話的な学習の充実
単元を通した探究課題 ○意欲を高め、主体的に探究課題へ向かわせ見通しをもたせる問い ○知識及び技能を習得させる問い ○習得した知識及び技能を活用し、思考を深める問い	既習の知識の活用 ・学習課題の把握 ・課題解決の見通し 新しい知識の習得 ・調査や資料の読み取り ・対話的な活動 ・振り返り 習得した知識及び技能の活用 ・社会的事象の考察・構想 ・対話的な活動 ・ポートフォリオなど	○見方・考え方を働かせる問い ○少人数グループによる活動 ○個人の考えをもつ時間の確保 ○話型の活用 ○思考ツールの活用 ・単元を通して習得した知識や働かせた見方・考え方が視覚的に分かるワークシートの活用

★思考力、判断力、表現力等が育成された目指す生徒像

・社会的事象における課題を見いだし、解決について考える生徒
・調査や諸資料を基に社会的事象を多面的・多角的に考察し、表現したり合意形成したりする生徒
・自己や他者の考えを基に考察・構想（選択・判断）する生徒

1　思考力、判断力、表現力等を育成する学習指導について

指導者が単元を通して生徒が働かせる社会的な見方・考え方を明確にして、単元の学習活動の中で相互に関連させて意図的に配置する。生徒がそれを効果的に働かせながら調査を行ったり、諸資料を読み取ったりするとともに、対話的な学習の充実を図るなどして、社会的事象を多面的・多角的に捉えて、考察したり構想したりすることを積み重ねていくことで、思考力、判断力、表現力等が育成されていくと考えた。

(1) 社会科において育成を目指す思考力、判断力、表現力等

【表１】より、思考力、判断力、表現力等の育成には、社会的事象の意義や意味、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力、自分の考えを論理的に説明したり、議論したりする力を育成することが必要になる。このことから、思考力、判断力、表現力等の育成のためには、社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、課題解決に向けて構想したりするとともに、考察・構想する際に、説明したり議論したりすることが必要になると考えた。

【表１】社会科において育成を目指す思考力、判断力、表現力等の整理

	現行学習指導要領 （平成 20 年１月）	学習指導要領解説社会編 （平成 29 年６月）
地理的分野	様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力	・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地域に見られる課題を把握し、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力 ・趣旨が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的に説明したり、それらを基に議論したりする力
歴史的分野	様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力	・歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力 ・趣旨が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的に説明したり、それらを基に議論したりする力
公民的分野	様々な資料を適切に収集し、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力	・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代の諸課題について公正に判断したりする力 ・他者の主張を踏まえたり取り入れたりして思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力

(2) 社会的な見方・考え方

新学習指導要領では、「社会的な見方・考え方」は、課題を追究したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握し

て、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法であり、資質・能力の全体の育成に関わり、「思考力、判断力、表現力等」の育成に当たって重要な役割を果たすものとされている。以下に各分野における「社会的な見方・考え方」を【表２】にまとめた。

【表２】「社会的な見方・考え方」

	社会的な見方・考え方
地理的分野	◎社会的事象の地理的な見方・考え方 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて働かせること。 考察：地域の特色や地域相互の関連を多面的・多角的に考察する力 構想：地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力
歴史的分野	◎社会的事象の歴史的な見方・考え方 社会的事象を、時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりして働かせること。 考察：時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力 構想：歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力
公民的分野	◎現代社会の見方・考え方 社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理念など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて働かせること。 考察：社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力 構想：複数の立場や意見を踏まえて構想する力

【表２】から、地理的分野、歴史的分野において「社会的な見方・考え方」は、学びを深める際の「視点」と「方法」であり、公民的分野では概念的枠組みが現代社会を捉える「視点」であり、その概念等を用いて選択・判断する「方法」と考えた。社会科における「社会的な見方・考え方」は、社会的事象等の意味や意義、相互の関連や考察したり、社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想したりする際の「視点や方法」である。「視点や方法」は、敢えて分けて捉えるものではないとされているが、地理的分野が位置や空間的な広がりなどに着目したり、歴史的分野が時期・推移などに着目したりして、事象同士を関連付けたり、因果関係を捉えたりしているのに対して、公民的分野では、概念や理念などに着目して捉え、課題解決のための選択・判断に活用して考えるところに違いがある。これらの視点や方法を働かせながら、考察や構想するような学習活動を行うことで、思考力、判断力が育成されていくと考えた。また、実際に学習指導を行う際の「社会的な見方・考え方」を働かせた視点例を【表３】にまとめ、この視点を基に検証を行っていくこととした。

【表３】「社会的な見方・考え方」を働かせた視点例

	考えられる視点例
地理的分野	○位置や分布に関わる視点 絶対的、相対的、規則性・傾向性、地域差　など ○場所に関わる視点 自然的、社会的　など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境依存性、伝統的、改変、保全　など ○空間的相互依存作用に関わる視点 関係性、相互性　など ○地域に関わる視点 一般的共通性、地方的特殊性　など
歴史的分野	○時系列に関わる視点 時期、年代　など ○諸事象の推移に関わる視点 展開、変化、継続　など ○諸事象の比較に関わる視点 類似、差異、特色　など ○事象相互のつながりに関わる視点 背景、原因、結果、影響　など
公民的分野	○現代社会を捉える視点 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性 個人の尊重、自由、平等、選択、配分、法的安定性、多様性　など ○社会に見られる課題の解決を構想する視点 対立と合意、効率と公正、民主主義、自由・権利と責任・義務、 財源の確保と配分、利便性と安全性、国際協調、持続可能性　など

２　社会的な見方・考え方を働かせた授業の創造

(1) 働かせる見方・考え方を基にした問いの工夫と構造化

社会的な見方・考え方を効果的に働かせることで、知識及び技能を習得・活用し、思考力、判断力、表現力等が高まるといった考え方は前述のとおりであるが、そのためには、指導者が生徒にどこでどのように社会的な見方・考え方を働かせるかといった具体的な指導計画が必要である。一方で、生徒が社会的な見方・考え方を理解していなくても、指導者が二つの資料を提示し、「これらにどのような違いがあるか」と発問することで、生徒は自然と比較することになる。生徒は、社会的な見方・考え方を働かせて取り組むことで思考力、判断力、表現力等を高めることができる。つまり、社会的な見方・考え方を効果的に働かせるために重要なのは問いということになる。

では、具体的に問いはどのように設定されるべきなのだろうか。授業内での問いは、生徒

がその解決する過程で社会的な見方・考え方を働かせるようにする必要があり、また、その単元を通した最終的な探究課題へ迫るための問いである必要がある。そこで、問いをつくる上で、考慮すべき点を挙げる。

① 関心・意欲を高め、主体的に探究課題へ向かわせるような問い

〈空間的相互依存作用・地域〉

例:(みんなは国連のスタッフです。)アフリカ州がよりよくなるためにはどうすべきか、地域の課題を踏まえつつ世界各国に提案しましょう。

② 知識及び技能を習得させるような問い 〈空間的相互依存作用・地域〉

例:資料「アフリカの国々からみた貿易品目」を見て、どのようなことに気付きますか。

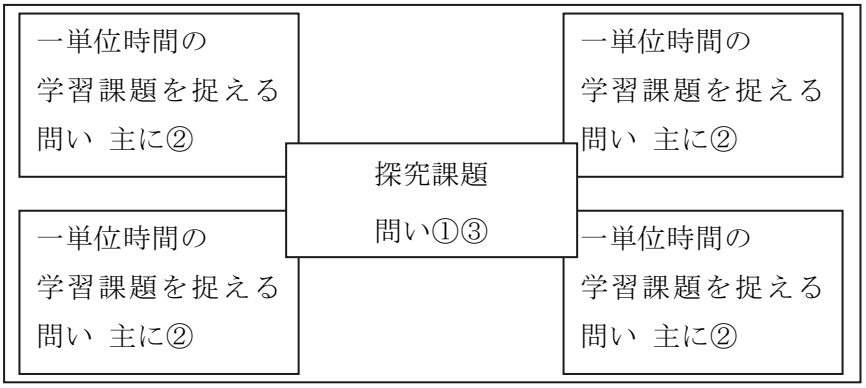
③ 習得した知識及び技能を活用し思考させるような問い 〈空間的相互依存作用・地域〉

例:アフリカ州の多くが貧困など様々な課題を抱えているのはなぜでしょう。

単元の冒頭で、①のように生徒にとってできるだけ身近な設定にしつつ、単元を通した問いに対する社会的事象の本質的な理解につながるような問いを設定することで、生徒の関心意欲を高め課題へ主体的に向かわせるような工夫を行う。地理的分野においては、地球的規模の課題に対してどのように主体的に取り組むのかといった点がここに表されている。また、②は単元の至るところで見られる知識及び技能を習得させるような問いになっており、このことなくして③のような問いを発することはできない。②が十分でないと、内容が非常に薄い表面的な学習活動になってしまう。

上述のように社会的な見方・考え方を働かせるために問いを工夫するわけだが、次は、それをどのように計画し、活用させるのかといった点を検討する。

＜問いの相関図＞の作成 ＊４時間扱いの場合



上の図のような＜問いの相関図＞（ワークシート）を作成し、単元を通して探究課題に関する問いを設定する。その課題に迫るための一単位時間ごとの問いを作成する。この一単位時間ごとの問いは、探究課題を捉えるために必要な道筋であり、授業の中には上述②のような知識及び技能を習得させるような問いが含まれるものとする。授業後に生徒はその日の振り返りとして、その日の学習活動への問いを箇条書き等で記載していく。探究課題を扱う際には、それらが全て埋まっており、社会的な見方・考え方を働かせつつ、既習した知識及び技能を関連させ探究課題へと向かっていくことになる。指導者はこの問いの相関図を事前に

作成することで、学習単元の見通しをもち、生徒に振り返りをさせることで知識及び技能を定着させ、新たな課題へと挑戦していく原動力を支えることになる。さらに、単元の冒頭、つまり知識及び技能を習得する前の段階で、問いの相関図にある主要な問いに対する生徒の仮説を書かせ、その上で最終的な単元の終わりに自身が書いたものとの比較をすることで思考の深まりを肯定的に捉えることができる。

(2) 対話的な学びの工夫

ア　対話的な学びの意義

平成 28 年 12 月の中央教育審議会の答申では、「対話的な学び」を、「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める」活動としている。また、同答申では「身に付けた知識・技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくこと」を求めている。授業の中で身に付けていく知識及び技能を、対話的な学びの中で活用していくことで、生きて働く知識及び技能として定着し、より深い学びへとつながっていく。

また、新学習指導要領解説総則編第３章第３節の１の(2)では、言語活動の充実として、「社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視すること」とある。つまり、対話的な活動は、社会的な見方・考え方を働かせながら、知識及び技能を定着させるとともに、それを活用した表現などを通して、思考力、判断力、表現力等を育成していくために重要な学習活動である。そして、対話的な学習を通して課題を協働的に解決する活動を積み重ねていくことで、豊かな創造性を備え、社会の諸課題を主体的に解決し、未来の創り手となる生徒の育成につながる。

イ　対話的な学びの実態と課題

前述の東京都教育委員会が実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（平成 28 年）の結果、「学級やグループで話し合う活動を授業などで行っている」と回答した学校の割合は 90％を超えている。しかし、研究仮説にあるように、対話的な学習により思考力、判断力、表現力等の育成が十分に図られていないという実態がある。その原因として、指導者が対話的な学習の際に働かせる見方・考え方を明確にしておらず、生徒が対話の際に見方・考え方を働かせていないことがあると考えられる。そこで、本研究では、対話的な学習を「子供が社会的な見方・考え方を働かせながら、習得した知識及び技能を活用し、自己や他者の意見や考察・構想した内容を交流する活動を通して、新しい自己との出会いがある学習」と定義し、課題の解決を図ることとした。

（1）（2）を基に、社会的な見方・考え方を働かせ、より効果的に思考力、判断力、表現力等を育成するための具体的な手だてとして、単元を通した問いを考察・構想する際に行う対話的な学習で、生徒が単元を通して習得した知識等を一覧にしてすぐに認識できるワークシートを工夫し、三分野共通して検証することとした。

3　検証授業

(1) 地理的分野

ア　(1)　世界の様々な地域　ウ世界の諸地域　(ｳ)アフリカ

イ　単元の目標

生徒が空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、アフリカ州で見られる地球的課題や地域的特色を理解し、その課題の要因や影響を地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。

ウ　単元の評価規準（具体的な評価規準）

視点	ア：社会的事象への関心・意欲・態度	イ：社会的な思考・判断・表現	ウ:資料活用の技能	エ:社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	①アフリカ州の地球的課題や地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	①アフリカ州における地球的課題の要因や影響を、その地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、自分の言葉で適切に表現している。 ②習得した知識や諸資料を適切に活用し、持続可能な社会（よりよいアフリカ）をつくるための多角的な考察、表現をしている。	①アフリカの地球的課題や地域的特色に関する様々な資料を収集し、適切な情報を読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	①アフリカ州の地球的課題や地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

エ　単元について

本単元は、新学習新指導要領社会地理的分野の内容(2)③及び内容の取扱いイに沿って設定している。この中項目のねらいは、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することであり、世界の各州の地域的特色やそこで見られる地球的課題と地域的特色の関係を理解できるようにすることである。それを踏まえて本研究授業での主題は、新学習指導要領の主題例にある「耕作地の砂漠化」や「経済支援に関わる課題」を含む「ユニセフとともに考えるＳＤＧｓ」とした。アフリカ州の地域的特色を捉え、多くの地球的課題を抱えるアフリカ州について、地球に住む一人の人間としてよりよい社会（持続可能な社会）を考える学習は、今後のあらゆる諸課題を解決する力等を養うことにつながると考えている。よりよい社会を築くためには、物事を批判的に考え、未来像を予測して計画し、他者と協力しながら、主体的に行動する力等が必要となる。持続可能な社会を構築しようとする意識や態度は一朝一夕で生み出せるものではなく、全ての単元において上述の学習を実践しなければならない。地理的分野は世界の様々な地域や日本の様々な地域において、歴史的分野は現代の日本と世界において、公民的分野は私たちと国際社会において、どのように捉え、行動したら、よりよい社会になるのかを常に考え、課題を解決する力を公民としての資質・能力として育成する指導を行っていきたい。

オ　単元指導計画と評価計画

単元を通した探究課題「アフリカ州はなぜ貧しい地域が多いのだろう。」

時間	ねらい	学習内容・学習活動 ★見方・考え方を働かせる活動	学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法）	見方・考え方
第1時	アフリカ州とヨーロッパ州の距離を体感し、アフリカ州の自然環境について、大まかな位置関係を捉える。気候帯の分布や飢餓人口の割合などの資料から単元を通した問いを立てる。	★地図帳の日本をトレースし、それを基にアフリカ州とヨーロッパ州の距離を体感する学習や、アフリカ州の景観写真、地雷のレプリカなどに触れ、そこに暮らす人々の生活や自然環境に関心をもち、大まかな様子を捉える。 ★気候帯の分布や飢餓人口の割合などアフリカ州の特色を表す資料を適切に読み取って、これからの学習における単元全体の問いを立てる。	ア－①　感想欄に意欲的な発言が見られる。（ワークシート） ウ－①　アフリカ大陸に占める乾燥帯の存在や赤道を挟んで対照的に気候が分布していることなどを資料から適切に読み取っている。（定期考査）	位置や分布・場所（自然的・社会的）
第2時	アフリカ州の地球的な課題や特色を捉える上で必要となる歴史的背景を理解する。チョコレートからアフリカ州における経済的な課題を多面的・多角的に考察する。	★アフリカ州の文化、言語、宗教、歴史を理解する。 ・チョコレートという題材を通してアフリカ州の経済的な課題を多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現する。	エ－①　ヨーロッパ人によって征服された歴史をもち、それが現在に至るまでの課題と関連しているなど歴史的背景を理解している。（定期考査） イ－①　チョコレートの価格の内訳という資料をもとに、アフリカ州の経済的な課題について多面的・多角的に考察し表現している。（ワークシート）	人間と自然環境との相互依存関係
第3時	アフリカ州の鉱産資源に関する特色を捉え、日本や世界とのつながりを諸資料から読み取る。	★アフリカ州の鉱山資源の分布や輸出品目など産業面の特色を理解する。 ★身の回りにあるアフリカ産の食品や国際協力に関する諸資料から、アフリカ州と他地域との結び付きを読み取る。	エ－①　アフリカ州の鉱産資源は、どのように分布しているかなどの地域的特色を理解している。（定期考査） ウ－①　よりよいアフリカ州を考察する際の多角性をもたせるために、アフリカ州と他地域との結び付きに関する諸資料を適切に読み取っている。（ワークシート）	空間的相互依存作用
第4時	地球に暮らす一人の人間として、ユニセフとともによりよいアフリカ州を、多面的・多角的に考察する。（本時）	★既習した地理的な見方・考え方、諸資料を全て活用し、ユニセフとともに持続可能な社会を目指す地球規模の視点に立って、「よりよいアフリカとは」、「自分自身がアフリカ州の課題解決に向けてできることは」などを多面的・多角的に考察し、適切に表現する。	イ－②　アフリカ州の地域的特色や地球的課題を捉えつつ、持続可能な社会とはどのようなものか、自分自身がどうしていくべきかを既習した地理的な見方・考え方を活用して表現している。（ワークシート）	地域（一般的共通性、地方的特殊性）

第５時	アフリカ州の地域的特色や地球的課題を既習事項と関連させて白地図にまとめ、その州をキャッチコピー等で表現する。	★白地図を利用して、適切な資料を選択かつ作成する。 ★アフリカ州の特色や地球的課題を多面的・多角的に考察して、自分の言葉で表現する。	ア－①　感想欄に意欲的な発言が見られる。(ワークシート) イ－①　アフリカ州を一言で表すキャッチコピーを作る学習を通して、白地図や諸資料を適切に活用し、アフリカ州の特色や地球的課題を適切に表現している。（ワークシート）	（これまでの既習事項の全て）

カ　本時（全５単位時間中の第４時）

(ｱ) 本時の目標

習得したアフリカ州の地球的課題や地域的特色に関する事柄を関連付け、それらを多面的・多角的に考察してユニセフとともに 2030 年のよりよい「アフリカ像」を表現する。

(ｲ) 本時の展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入（5分）	１　目標の確認 生徒がこれからの社会の担い手であり、諸課題を解決しなければいけないことを確認する。	＊電子黒板の準備 電子黒板を使って、アフリカ州の特色や地球的課題を振り返るとともに、ユニセフＨＰの動画（１分程度）を見せ、諸課題に対する解決の必要性を確認させる。	
展開①（30分）	２　３から４人グループで課題解決型の学習を行う。	既習事項である地理的な見方・考え方や諸資料を活用し、課題に取り組ませる。 ＊諸課題（既習）のまとめは個人の宿題とする。 ピラミッドランキングの作成は、一番上の課題を選択することに注力させる。 話合いに参加できない生徒に適切な支援を行う。	
	あなた方は、ユニセフの関係者（各グループ）として、国連の会議に出席することになりました。そこで、2030 年のよりよいアフリカ像の提案を求められました。これまで多くの課題点が浮き彫りになったと思いますが、最終的にどんな点に注力したいと感じましたか。既習事項や諸資料を活用して、意見を出しましょう。		
	３　９グループそれぞれが発表する。	各グループ１分の目安で発表させる。 自分たちのグループにない視点を、積極的にメモをさせる。	
	グループ構成：３人から４人を１グループとして、生活班とは別のグループ構成とする。 発表の形態：グループ代表を中心に話合いを行い、クラス全体に発表する。その際、ホワイトボードに記入し、それを黒板に貼って発表する。		

<table>
<tr><td rowspan="3">展開②（10分）</td><td>4　発表を受けて、アフリカ州が抱える様々な諸課題を、自分自身の課題に置き換えて、何ができるのかを考える。（個人作業）</td><td>既習事項と関連させながら、あくまでも地理的な内容を使って、課題に取り組ませる。

作業が進んでいない生徒には、発言の助言や手助けを行う。</td><td>イ－②　諸資料を適切に活用し、持続可能な社会をつくるためのよりよい「アフリカ像」を多面的・多角的に考察し、表現している。（ワークシート）</td></tr>
<tr><td colspan="3">よりよいアフリカ州のためには、アフリカ州の国々が自立することはもちろん、他国の協力も欠かせません。そこで国連としては、貿易やＮＧＯなどで関係の深い日本の中学生たちにもその国際協力を呼びかけたいと思います。将来のよりよいアフリカ州にむけて、これからを担う日本の中学生たちにどんなことを期待しますか。上（ワークシート内）のＳＤＧｓの視点を踏まえつつ、アフリカ州の解決すべき一番の課題を捉え、その理由を書きなさい。
＊以下の点に注意して書くこと。
①：課題が既習事項の地理的な内容である
②：なぜその課題から解決すべきなのかの理由を明確にする　　こと。</td></tr>
<tr><td>5　数名の生徒が発表する。</td><td>持続可能な考え方で、未来を見据え、全体の利益に向かおうとするような生徒の考えを紹介し、それによって思考を促す。</td><td></td></tr>
<tr><td>まとめ（5分）</td><td>6　様々な地球的課題を抱えるアフリカ州を通して、これからの社会の在り方を確認する。</td><td>地球に住む一人の人間として何ができ、どうしていくべきなのかを確認する。また、次の諸地域学習では先進国を主に学習することになり、その立場で地球的課題にどう関わることが持続可能な社会を創っていけるのか、創っていくことになるのか継続して考える機会をつくる。</td><td></td></tr>
</table>

キ　成果と課題

本検証授業では、地理的な見方・考え方を意図的に習得・活用させるような単元を通した探究課題を設定し、対話を通じた学習を工夫することで思考力・判断力・表現力等を高めようとした。

(ｱ) 成果

世界の諸地域学習を始める前と後で実施したアンケートにおいて、「あなたは社会科の授業で考えるときに、今まで学習した知識や技能を自分で活用していると思いますか」という項目では、肯定的に回答した生徒の割合は 44.3%から 63.1%へと上昇し、「あなたは自分が考える際に、意識的に社会的なものの見方や考え方を働かせていると思いますか」という項目も、以前は 9.8%だったものが、64.6%へと 54.8 ポイントが上昇した。生徒の記述例を見てみても、習得した知識や技能を活用している例、地理的な見方・考え方を働かせていると読み取れる記述が多くあった。

【検証授業後の生徒の振り返りより】（一部抜粋）

○地理的な見方・考え方を働かせている例
・アフリカ州はヨーロッパ州と距離が近く、植民地にされていた時代がありました。（位置や分布）
・アフリカ州の気候は、赤道を挟んで熱帯、乾燥帯、温帯など線対称のように広がっています。（位置や分布）
・乾燥帯の部分はイスラム教が広がっています。しかし、サハラ砂漠を越えられなくて、南の方には広がっていません。（人間と自然環境との相互依存関係）
○地理的な見方・考え方を働かせて考察している例
・資料 13 を見るとダルフール紛争などがあるが、資料５と重ねると砂漠化が進んでいるところに紛争が広がっています。（比較）
・身の回りの物がアフリカから来ていることも多いから、このまま課題が解決されないで続くと日本にも影響がでてくるので、両方の課題として考えていかなければならないと思う。（空間的相互依存作用）

本研究での目指す生徒像の一つに、「自己や他者の考えを基に構想（選択・判断）する生徒」とある。地理的分野における地球的規模の課題解決に対する取組でも、個人の価値観の変容に迫るような記述も見られた。

○自己との関わりから考えた例
・目の前を支援する募金には、僕は反対だ。今だけでなく未来につながる行動をしていきたい。
・いつも食べているご飯を残さず食べたり、募金や木を育てたりして、自分ができることを積極的にしていきたい。

(ｲ) 課題

ねらいと問いとの関係性をより吟味することが挙げられる。例えば、国際連合の一員としてユニセフとともにアフリカのよりよい姿を考察させ、国連として関係の深い日本の中学生たちにも国際協力を呼び掛けたいという場面設定で学習を展開したが、今の中学生の視点で「自分たちに何ができるだろうか」と構想させるような問いであったため、多くの生徒が募金といった一般的な答えになった。課題解決に向けた意識はもちろん、普段の学習が未来を創るなど、より多面的な視点、発想を出せるように、問いの工夫、授業計画が重要である。

(2) 歴史的分野

ア　単元名　(4)近世の日本と世界　エ　経済の成長と幕政の改革

イ　単元の目標

・江戸時代中期から後期について、関心を高め、意欲的に追究して、社会の大きな変化の流れや幕府政治の行き詰まりなどの特色を意欲的に追究する。

・江戸時代中期から後期の特色や歴史的事象について、多面的・多角的に考察し、時代の大きな流れや幕政改革の背景、内容、結果を適切に表現する。

・当時の社会の変化や幕政改革に関する諸資料から、情報を適切に選択して読み取ったり、年表などにまとめさせたりする。

・幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解する。

ウ　単元の評価規準（具体的な評価規準）

ア:社会的事象への関心・意欲・態度	イ:社会的な思考・判断・表現	ウ:資料活用の技能	エ:社会的事象についての知識・理解
① 江戸時代中期から後期の歴史的事象に対する関心を高くもち、自分の考えを発表したりワークシートに書き込んだりしている。 ② 意欲的に話合いに参加し、ワークシートに班員やクラスの意見を書くなど当時の特色を捉えようとしている。	① 社会の変動や欧米の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想等を諸資料や話合いを基に多面的・多角的に考察している。 ② 幕府の国内外の変化への対応について、過程や結果を公正に判断し適切に表現している。	① 社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどに関する様々な資料から、特色や推移等の情報を適切に読み取ったり年表にまとめたりしている。	① 江戸時代中期から後期の社会的背景を踏まえ、対応する幕府政治が次第に行き詰まりを見せたこと等を理解し、知識を身に付けている。 ② 江戸幕府の政治や化政文化についてその社会的背景や関連性について理解している。

エ　単元について

この中項目エについては、貨幣経済の広がりやそれに伴う農村の変化や商業の発達などから近世社会の基礎が揺らいでいったことに気付かせ、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させることをねらいとする。それを踏まえ、本検証授業の主題は大きな時代の流れを捉えさせることとした。

江戸時代、産業や交通の発達により都市の発展や町人文化が形成され、社会全体が発展を遂げていく中で、少数の武士ではなく多数の農民や町人らが社会を動かす力を示し始めたこの時期は、のちの開国、倒幕の流れへとつながる。幕府政治を政治、経済、文化などの異なる側面で比較したり、異なる立場から歴史的事象を捉えたりすることで、多面的・多角的に考察することが可能になる。長きにわたる江戸幕府という政権の社会への対応を考察することにより、次単元で学ぶ近代の明治政府、第三学年で学ぶ公民的分野、さらに生徒たち自身が主権者として生きる将来にわたるまでの政治につながるきっかけとなると考えている。よりよい政治についての考察を、今後の生徒自身の現代社会の在り方への関心につなげたい。

オ　単元の指導計画と評価計画　（６時間扱い）

単元を通した探究課題「幕府の政治改革はなぜ繰り返されたのだろう。」

	ねらい	学習内容・活動 ★見方・考え方を働かせる活動	学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法）	見方･考え方の視点
第１時 本時	幕政改革の背景となる18世紀から19世紀前半の時代を大観する。	★当時の社会状況を示す諸資料を読み取り、時代の流れや特徴を大まかに捉えようとする。 ★諸資料を使い、出来事の関連性を捉え、多面的・多角的に社会の変化を考察する。	アー①、②社会の様子に関心をもち課題に取り組んでいる。(観察) ★イー①諸資料を活用し時代の流れをおおまかに捉えている。（ワークシート）	推移（変化）
第２時	改革の背景となる社会の変化と人々への影響を因果関係に着目し考察する。	・農村への貨幣経済の広がりを理解する。 ★社会の変化について、幕府や町人、農民など立場の異なる人々の生活への影響を諸資料から読み取りまとめる。	★ウー①貨幣経済の広がりと百姓一揆・打ちこわしを関連付けて捉えている。（ワークシート） エー②幕府政治や社会の変化による民衆の動きについて理解している。（考査・ワークシート）	事象相互のつながり（原因）
第３時	18世紀の幕政改革の背景と内容、結果を調べて比較・考察する。	・享保、田沼、寛政と繰り返される幕政改革について、その背景と展開、結果を調べる。 ★諸改革について多面的･多角的に考察し、自分なりの評価に取り組む。	アー①・②各幕政改革について調べ、話合いに協力している。（観察） ★イー①・②諸改革の相違点や意義について考察できる。（ワークシート）	比較（差異）
第４時	19世紀前後の国内外の出来事について、幕府の対応を考察する。	・欧米諸国への対応を、社会情勢を踏まえ理解する。 ★天保の改革について、18世紀の諸改革と比較し考察する。 ・幕府政治が次第に行き詰まったことを理解する。	★イー①国内外の社会の変化と幕府の対応について考察している。（ワークシート・発言・考査） エー②幕府政治が次第に行き詰ったことについて理解している。（考査・ワークシート）	比較（類似）
第５時	化政文化を中心とする人々の動きや諸藩の改革について捉える。	★諸資料を通して化政文化の特色をつかみ、国学や蘭学などの学問や思想の広まりを社会の変化と関連付けて理解する。 ・諸藩でも改革が行われていたことを社会背景から捉える。	ウー①化政文化の特色を表にしてまとめている。（ワークシート） ★エー②幕政の諸改革期の学問や化政文化について理解している。（ワークシート・発言・考査）	比較（特色）・事象相互のつながり（影響）
第６時	単元のまとめ	★単元を通した探究課題「幕府の政治改革はなぜ繰り返されたのだろう」を自分なりに考察する。	★イー①・②諸改革について相違点や意義を考察し、発表している。（ワークシート・発言）	意義

カ　本時　（全６単位時間中の第１時）

(ｱ) 本時の目標

・江戸時代の社会の様子に関心をもち、学習課題を意欲的に追究する。

・資料や年表を関連させて、時代の流れについて適切に表現する。

(ｲ) 本時の展開　　班…グループ活動、個人…個人活動

時間	主な学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
導入 3分	**これから学ぶ江戸時代の中期～後期はどのような時代だろう**		
	これまでの振り返りをする。 江戸、幕藩体制、鎖国、経済、元禄文化	・江戸前期、幕藩体制が整い約 260 年続く時代の基礎ができたことを確認する。	
	《変化を捉える》資料から 18 世紀から 19 世紀の江戸時代について、特徴を共有しよう		
展開 10分	①個人　資料を班員で分担し、選んだ資料から、大きな時代の流れや特徴的な歴史的事象（変化）を読み取る。 ②班　自分の担当した資料について読み取った内容を発表する。他の担当資料の情報を聞き取ってメモを取る。	・はじめに大きな流れ・変化をつかませる。その後、特徴的な変化に着目させる。 ・全体で資料を見て大きな流れについて確認をする。	
	《関連付ける》年表から資料と関わりの深い出来事を捉えよう		
5分 7分	①個人　資料の傾向や変化と関わりの深い出来事を資料集の年表から取り出す。 ②班　各資料について年表を確認しながら共有する。資料同士の関連を考える。	・各自で考える時間を取る。 ・変化の前に要因となる出来事、後に影響を受けた出来事に着目させる。 ・ワークシートに適宜メモをとらせる。	
	期待する生徒の話合い例 Ⅰ　ききんの後に百姓一揆や打ちこわしが起こっている。 Ⅱ　日本周辺に外国船が増えて異国船打払令が出た。 Ⅲ　借金が増え長州藩が改革をしている。ききんが起こったから収入が減り借金が増えた。 Ⅳ　金の産出が減ったから、小判を新しく作った。		
10分 5分	《多角的に考える》 ①ワールドカフェ形式（２分×４人）の話合い （座席を元に戻す。） ②代表グループ（３～４班）（１分×３～４人）ホワイトボードを使用して発表する。	・各班１人の司会を残す。新しい考えなど、適宜メモを取らせる。他のメンバーは別の班に行き話合いをしてくる。 ・発表者は記入者以外とするなど、できるだけ多くの生徒に役割をもたせるようにする。	ア①・②、イ① 発表・ワークシート
まとめ 10分	**《探究課題を確認する》幕府の政治改革はなぜ繰り返されたのだろう**		
	①個人　考察の際に出てきた出来事の中で、大事だと思うものを年表に記入する。 ②班での話合いや各班の発表を踏まえて本時を振り返り、まとめる。	・社会の変化に対して、幕府が行ったそれぞれの政治改革を調べていくことを確認する。 ・年表は、これからの単元を通し完成させていくことを伝える。 ・大きな時代の流れについて、自分なりに考えたことをまとめさせる。	イ① ワークシート

キ　成果と課題

本検証授業では、歴史的な見方・考え方を意図的に働かせるような単元を通した探究課題

を設定し、対話を通じた学習を工夫することで思考力・判断力・表現力等を高めようとした。

(ｱ) 成果

検証授業を行う前と後で実施したアンケートの結果、「あなたは社会の授業で考えるときに、今まで学習した知識や技能を自分で活用していると思いますか」という質問項目では、「とても思う」が 1.5 ポイント上昇したほか、「思わない」と回答した生徒の割合は０になった。単元を通した探究課題の設定やワークシートの活用など、授業において、生徒に対してねらいを明確化し、継続して意識化ができたことにより、生徒自身が学習に意欲的に取り組む姿勢がアンケート結果からも見えてきた。生徒の記述からも、歴史的な見方・考え方を働かせ、知識及び技能を活用したと読み取れる内容が多く見られた。

【検証授業後の生徒の振り返りより】（一部抜粋）

- ききんが起こったことにより百姓の不満がたまり一揆が起こった。（つながり）
- 何度も改革を行うにつれて打ちこわし、百姓一揆が増えていった。（推移）
- 外国船が増えるとともに、百姓一揆が起こり政治が不安定になっている。（つながり）
- 借金がとても増えたり百姓一揆が多発したりと昔に比べ不安定になってきている。（比較）

目指す生徒像の一つに、「調査や諸資料を基に、社会的事象を多面的・多角的に考察し、表現したり、合意形成したりする生徒」とある。本検証単元全体のまとめとなる単元を通した探究課題に対して、以下のように多面的・多角的に考察した結果を記述した生徒も見られた。

> ようやく平和な時代がやってきて、幕府はこの平和をずっと保ち、後世につなげていこうという共通の意志があった。…（省略）…、外国情勢や内部の混乱などによって難しい改革をしなければならなくなってしまった。改革は違えども、目標は同じだったと思う。

(ｲ) 課題

まず、単元の初めに今後の見通しをもたせる時間を設定することは、単元全体や年間指導計画の中でカリキュラム・マネジメントし、単元ごとに軽重をつける必要がある。これに加えて、生徒に提示する資料数の精選や取組を継続的に行うことなどは、今後も検討すべき課題である。

アンケート結果から、学習に際して「あなたは自分が考える際に、意識的に社会的なものの見方や考え方を働かせていると思いますか」との質問項目で、検証授業後には「分からない」が減少し、肯定的な回答をした生徒の割合が増加した。しかし内訳をよく見てみると、「思う」と回答した生徒の割合が 13.9 ポイント増加している一方で、「とても思う」と回答した生徒の割合は約 5.9 ポイント減少するという結果であった。記述内容もあわせて分析したところ、社会的な見方・考え方を働かせることができるようになってきたと同時に、よりよく取り組もうとして自己評価を下げている生徒が増加したと考えられる。

社会的な見方・考え方を働かせるためには、諸資料の読み取りや主体的・対話的で深い学び以上に、その既習知識を生かすような問いの立て方、単元の見通しをもって指導に当たる継続的な指導者の取組が必要である。

(3) 公民的分野

ア　単元名　（２）私たちと経済　ア　市場の働きと経済　「生産と労働」

イ　単元の目標

・企業の経済活動に関する諸問題に着目し、社会における企業の役割と責任について意欲的に追究する。

・企業には、市場において公正な経済活動を行い、消費者、株主や従業員の利益を増大させる役割があることについて、様々な立場や視点から考察し、その過程や結果を適切に表現する。

・企業の経済活動に関する様々な資料を収集し、必要な情報を選択して読み取ったり図表にまとめたりする。

・現代の生産の仕組みにおける企業の働き、消費者、株主や従業員の利益を増進させる企業の役割を理解する。

ウ　単元の評価規準

ア：社会的事象への関心・意欲・態度	イ：社会的な思考・判断・表現	ウ：資料活用の技能	エ：社会的事象についての知識・理解
①企業の経済活動に関する諸問題に着目し、社会における企業の役割と責任について考えようとしている。	①企業には、市場において公正な経済活動を行い、消費者、株主や従業員の利益を増大させる役割があることについて、様々な立場や視点から考察し、その過程や結果を適切に表現している。	①企業の経済活動に関する様々な資料を収集し、必要な情報を選択して読み取ったり図表などにまとめたりしている。	①人間や社会に役立つ商品やサービスをつくりだす生産が、企業を中心に行われていることを理解しその知識を身に付けている。 ②企業には、消費者、株主や従業員の利益を増進させる役割があることを理解し、その知識を身に付けている。

エ　単元について

本単元は、中学校学習指導要領（社会）公民的分野の内容(2)の内容及び内容の取扱いアに沿って設定したものである。経済単元の導入に当たる単元であり、経済の内容に関わって概念的な枠組みとして見方・考え方を初めて働かせる単元といえる。

ア　市場の働きと経済

身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連付けて考えさせる。

（内容の取扱い）

アについては、身近で具体的な事例を取り上げ、個人や企業の経済活動が様々な条件の中での選択を通じて行われるという点に着目させるとともに、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解させること。その際、市場における取引が貨幣を通して行われていることに気付かせること。

本単元のねらいは、市場経済の仕組みや機能、金融の仕組み、個人と企業の経済活動における役割と責任などについて理解することである。その際、自分と関わらせて考えさせるこ

と、考えたことを説明させる学習活動を取り入れる工夫が重要となる。それらを踏まえて、単元の学習課題は「社会における企業の役割と責任とは、どのようなものか」とし、本単元の導入にあたる本時の学習課題は「売上金がすべて利益にならないのはなぜか」とした。そして、企業の役割と責任について「グローバル化・少子高齢化・産業構造の変化などの現代社会の特色」、「憲法と人権尊重の精神」などの多面的な視点、「経営者」、「従業員」、「株主」、「消費者」など多角的な視点から考えさせる学習活動を通して生徒の思考力、判断力、表現力等を育むとともに、根拠を基に公正な立場で物事を捉えようとし、課題解決に向けて他者と協働し、主体的に社会参画する生徒を育成していきたい。

オ　単元指導計画　（全５時間）

単元を通した探究課題「社会における企業の役割と責任とは、どのようなものだろうか」

	ねらい	学習内容・学習活動 ★見方・考え方を働かせる活動	学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法）	見方・考え方
第1時（本時）	生産活動における企業の役割、企業の大まかなしくみを理解し、企業の売上金の使い道について、経営や雇用等に関する資料を基に予想する。	・企業の経済活動の目的や企業の種類について理解する。 ★企業の売上金の使い道について話し合い、売上金にはどのような使い道があるのか既習事項や企業情報を基に予想する。	エ－①　生産活動における企業の役割について理解している。（定期考査） ア－①　売上金の使い道や企業の役割について様々な視点から予想したり、疑問点を挙げたりしている。（ワークシート・振り返りシート）	効率と公正 配分
第2時	株式会社のしくみについて、株主、株価、企業価値などに関する資料を読み取り、企業の社会貢献活動の意義や企業の株主に対する責任について理解する。	・株式会社のしくみを理解する。 ★企業の売上金の使い道を「株主」としての立場から、株価や企業価値の変動、企業の社会的責任に関する資料の中から、経営者に意見するために必要な資料を選択し、まとめる。	エ－②　株式会社の仕組みや株価の変動について理解し、その知識を身に付けている。（定期考査） ウ－①　売上金の使い道について、株主の立場から資料を読み取り、まとめている。（ワークシート）	効率と公正 配分 市場経済
第3時	労働者の権利、働き方や労働条件について、雇用形態の変化や賃金、就業時間などに関する資料を読み取り、労働問題について理解する。	・労働者の権利と法律、働き方や労働問題について理解する。 ★企業の売上金の使い道を、労働時間や賃金、雇用形態などに関する資料の中から、経営者に意見するために必要な資料を選択し、まとめる。	エ－②　労働者の権利とそれを守る法律、働き方や労働問題について理解している。（ワークシート・定期考査） ウ－①　売上金の使い道について労働者の立場から資料を読み取りまとめている。（ワークシート）	効率と公正 配分 個人の尊重 法的安定性

第4時	これからの企業のあるべき姿について、グローバル化、産業構造の変化など、現代社会の特色と関連させ、企業の社会的役割や将来への課題について予想する。	★現代社会の変化、政府の経済政策に関する資料を読み取り、政府が企業に期待すること、これからの企業の役割と責任について予想する。	ア－①　「グローバル化」、「少子高齢化」、「産業構造の変化」等の視点から、政府の期待やこれからの企業の役割について予想したり、疑問点を挙げたりしている。（ワークシート）	持続可能性 ・ 変化（グローバル化・少子化等）
第5時	社会における企業の役割と責任について、経営者・従業員・株主など様々な立場や現代社会の視点から考察する。	・経営者・従業員・株主など様々な立場や視点からそれぞれの会社の魅力と課題を考える。 ★企業が果たすべき責任について、「消費者」、「従業員」、「株主」、「取引先」、「地域」、「行政」の立場から考察する。	イ－①企業の社会的役割と責任について多面的・多角的に捉えている。（ワークシート）	効率と公正 配分 自由・権利と責任・義務 持続可能性

カ　本時　（全５時間中の第１時間）

(ｱ) 本時のねらい

生産活動における企業の役割、しくみの特徴を理解し、企業の売上金の使い道について、企業の経営状況や労働条件、雇用条件等に関する資料を基に予想する。

(ｲ)　本時の展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入5分	本単元の学習課題に対する動機付け 企業の生産活動や労働問題に関心をもつ。	電子黒板を使い、企業のイメージに関するアンケート、本時の内容に沿ったニュース等を提示する。 ・企業の社会貢献活動 ・若者の就労問題　　など	
	《企業の活動を効率と公正の視点から考える》 生産活動における企業の役割を理解しよう		
展開①10分	1　企業の目的、種類についての資料を読み取り、生産活動における企業の役割を理解する。	電子黒板でグラフの読み取り方を確認するとともに、読み取った内容について発表させ、クラスで共有する。	エ－①　生産活動における企業の役割について理解している。（定期考査）
	《効果的な利潤の配分を考える》 昨年度過去最高の営業利益を挙げ、純利益は 12 億 5000 万円を記録しました。 このお金をどのように配分するか考えられるだけ挙げてみよう		

展開② 15分	２　企業の売上金の使い道について、資料や既習事項を活用し、予想する。 ・ペアになりお金を使う目的について意見を分類する。 Ａ・利潤の拡大 Ｂ・従業員のため Ｃ・消費者のため Ｄ・その他の目的 ・グループで話し合い発表する。	・個人での作業時間を確保する。個人作業の際、資料にアンダーラインを引かせる。 ・12 億円の使い道についてイメージさせる（例　店舗改装 1,000 万　CM　２億円　など）。 ・３～４グループに発表させる。 ・既習事項（消費者、人権・憲法や現代社会）や資料を根拠とする意見、効率と公正の見方が反映されている意見を肯定的に捉え、全体にフィードバックし、共有する。	
	《単元を通した学習課題を確認する》 「社会における企業の役割と責任とはどのようなものだろうか？」		
まとめ 10分	振り返りシートを使い、単元の目標（ゴール）と見通しを捉える。 本時の感想、疑問等をまとめる。	・ 単元の学習課題を提示し、次時以降の視点を示す。 ・感想は次時の教材とすることを伝える。	ア－①　売上金の使い道や企業の役割について、資料や既習事項を基に様々な視点から予想したり、疑問点を挙げたりしている。（ワークシート・振り返りシート）

キ　成果と課題

(ｱ) 成果

社会的な見方・考え方を働かせる活動を効果的に位置付けるため、単元の探究課題を常に意識させ、毎時間異なる立場を設定するなどし、多面的・多角的に企業の役割と責任を考察させた。単元の中心となる見方・考え方は「効率と公正」、「配分」とした。「効率」とは利潤獲得という企業の目的を効率的に考えさせること、「公正」とは、利潤獲得の過程で果たすべき多様な役割と責任について公正に判断させることである。「配分」については、単元の目標に沿っていることに加え、公正さを考える際の視点の一つになることと、学習課題を生徒にとって興味・関心を抱きやすいものであることのことから視点とした。また、第２時は「株式会社」、「市場経済」、「持続可能性」、第３時は「人権」、「憲法・法律」、第４時は「グローバル化」、「少子高齢化」、「情報化」等の見方を働かせるよう意図し、授業を展開した。このようなねらいのもと、本研究の中心的な課題である「問い」の工夫、「対話的な学習の充実」に取り組んだ。生徒の記述の変容からは、思考力、判断力、表現力等の向上が見られた。

【検証授業後の生徒の振り返りより】（一部抜粋）

○生徒が見方・考え方を働かせた例 ・純利益をどう使うかは難しい。もし使いすぎても倒産してしまうかもしれない。また、貯金するだけでは会社の利益の拡大につながらないからだ。　(配分) ・私は施設の整備や清掃に利益を使いたい。理由は、信頼や信用につながることで、その後の

売り上げにも影響がでると思うし、頑張った従業員のモチベーションにもなる。（効率・公正）
・直接お金にならないスポーツ教室などにお金を使う。このようなサービスが利益につながる。（配分）

○生徒が見方・考え方を働かせて考察している例
《第３時》　従業員からすると残業が嫌だと思うし、会社からしてもブラック企業と呼ばれてしまえば損となるから、そう考えると残業代は出すべきだと思う。あとは働きやすい環境をつくることも、従業員の立場からだと大切なことだと思う。
《第４時》　国の借金がものすごいから、もっと世界とつながる大企業も増えてほしい。貿易が盛んになることで、世界各国との信頼関係も強まると思う。今ある商品をもっと売るか、新商品の開発に取り組むかも大切な判断だと思う。ただ、国としての信頼がなくなることが一番怖いと思う。
《第５時》　商品に使われている情報提供などを消費者は知る権利があるし、企業に制度で定められた消費者を保護する制度に協力する責任がある。他にも、借金が増える日本のためにお金を稼ぐこと（大企業は特に）、社会貢献活動に積極的に参加すること（好感度もアップする）株主に効率よく利益を渡すため業績を上げる事、法律や労働基本権などの憲法を守り、従業員の人権を保障するなどの責任がある。

また、公民的分野の学習を始める前と本単元終了時に実施したアンケートにおいて、「あなたは社会の授業で考えるときに、今まで学習した知識や技能を自分で活用していると思いますか」という質問項目で肯定的な回答をした生徒の割合は、69.6％から 82.9％へと上昇し、「あなたは自分が考える際に、意識的に社会的なものの見方や考え方を働かせていると思いますか」という質問項目でも肯定的な回答をした生徒の割合は、以前は 48.2％だったものが、80.0％へとポイントが上昇した。

(ｲ) 課題

まず、カリキュラム・マネジメントの充実が重要である。「問い」と「働かせる見方・考え方」を吟味、精選し、単元ごとの軽重や時数の配置を含めたより精度の高い指導計画が各単元、各分野において必要となる。そして、生徒自身が積み上げてきた知識や技能を活用し、見方・考え方を働かせ、よりよく学習に取り組もうとする姿勢を大切にしていきたい。そのためには、生徒の記述の変容を肯定的にフィードバックし続け、自らの成長や変容を実感できるような場面を意図的かつ段階的に設けることが必要である。このようなサイクルを習慣化させるため、指導計画の工夫や評価方法の改善に取り組んでいきたい。また、指導の効率化、精度の向上のためには他教科や外部機関との連携、金融教育プログラムの活用なども効果的だと考えられる。

また、抽象度の高い学習内容に関心をもたせるための教材開発が重要である。生徒自身の生活に近い設定を考えたが、本単元においても「生産」や「利潤」という言葉に抵抗があり、純利益の使い道について具体的に想像できない生徒もいた。分野としての特性を最大限活かし、時事的な要素も含んだ「分かりやすく魅力ある教材」を開発する継続的な取り組みが必要である。

Ⅵ　研究の成果

社会的な見方・考え方を意図的に配置関連させるような単元を通した指導計画を実践することで、思考力・判断力・表現力等を高めることに一定の成果が挙げられたことがアンケートや生徒の記述内容から読み取ることができた。研究員が所属する 10 校（約 1,300 人）でと

ったアンケートでは「あなたは社会の授業で考えるときに、今まで学習した知識や技能を自分で活用していると思いますか」という項目の肯定的回答は、63.1%から 70.5%へと上昇し、「あなたは自分が考える際に、意識的に社会的なものの見方や考え方を働かせていると思いますか」という項目も、以前は 38.5%だったものが、58.2%へとポイントが上昇した。生徒の社会的な見方・考え方を固定化させ無いような配慮は必要であるが、社会的な見方・考え方を視点として、社会的な事象を見ることができるようになっていることは成果と言える。

1　働かせる見方・考え方を基にした問いの工夫と構造化

実践した単元において、単元の最終ゴールを設定し、そこに至る過程を設定して、意図的に社会的な見方・考え方を働かせる問いを効果的に配置し、関連させることができた。問いを構造化・図式化して全体を捉えるという課程は、指導者が単元の見通しをもつことに非常に役立った。さらに、その問いやそれによって得た知識及び技能を学習者である生徒自身が確認することで、既習事項である知識や技能を活用させながら探究課題に迫り、その過程で思考力、判断力、表現力等を高める一助になった。

【アフリカ州のまとめ学習における生徒の振返りより】（一部抜粋）

・南米では開発を進めるのに道路がたくさん造られていたが、アフリカでは交通網が本当に少ない。それを発達させて他地域ともつながる必要がある。（前時既習事項との関連）

これは、地理的分野のアフリカ州において、これまでの既習内容である知識及び技能を活用し、よりよいアフリカ州を構想させる授業での例であるが、地理的な見方・考え方である空間的相互依存作用の点や前時で行っている南アメリカ州の学習などそれらを関連させてより深い学びへと進化させている。

2　対話的な学びの工夫

思考力、判断力、表現力等を高めるためには、深い学びが必要となる。個人が資料や学習活動を通して得た知識及び技能を活用して、それらを対話的な学びの中で活用していくことで、生きて働く知識及び技能として更に定着していく。そして、その過程がより深い学びへとつながっていく。これまでの既習の知識及び技能の関係が明確になることで、対話的な学びが意味をもつようになった。これまで３、４人の少人数グループによる話合い活動を軸として学習を進めてきたが、対話的な学びによる視点の広がりや理解の深まりが見られた。

Ⅶ　今後の課題

社会的な見方・考え方との関連については、より深い学びへとつなげるための問いはどのようなものがあるのか、授業のねらいと問いの再検討が課題である。問いの相関図や目標とするゴールを見据えてゴールから考える単元指導計画の作成などにおいて、指導者側は事前に教材研究をすることが重要である。内容的には地理的分野、歴史的分野、公民的分野という違いはあるが、社会科という教科の特質・特性を十分理解し、研究を継続していくことが必要である。また、その際評価規準や評価の方法等について、単元を通した探究課題の妥当性を吟味していくことが大切であると考える。

平成 29 年度　教育研究員名簿

中学校・社会

学校名	職名	氏名
大田区立大森第一中学校	教　　諭	保科　夏紀
大田区立田園調布中学校	主任教諭	渡邉　竹志
世田谷区立船橋希望中学校	教　　諭	和田　悠太
中野区立第七中学校	主任教諭	◎千葉　一晶
中野区立第十中学校	教　　諭	野上　昌志
八王子市立横川中学校	主任教諭	鈴木　篤
昭島市立昭和中学校	主任教諭	佐藤　駿介
日野市立平山中学校	主任教諭	高橋　信也
福生市立福生第二中学校	主幹教諭	田中　洋介
西東京市立ひばりが丘中学校	主任教諭	大鹿　明希子

◎全体世話人

[担当]東京都教職員研修センター研修部専門教育課
指導主事　國長　泰彦

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

中学校・社会

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年３月

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所　在　地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８４９
印刷会社　康印刷株式会社

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。